

広報

かけはし

発行：深川市男女平等参画推進協議会 第63号 (2024年2月)

女性プラザ祭 2023 11月9日(木)かでの2.7(札幌市) 参加：4名

「女も男もワイワイセッション」 テーマ 北海道における女性の政治参画

【パネラー】

藤沢 澄雄さん (北海道議会議員)

昭和31年新ひだか町生まれ、法政大学卒業。藤沢牧場社長、青年活動からまちづくりや政治活動に関心を持ち、町長選挙の公開討論会を主催、主体的な政治参画の必要性を実感。応援議員の後継として道議に立候補(2003年)6期当選。

鶴羽 よしこさん (北海道議会議員) 千葉大学卒業後 HBC に入社、29歳で退社しテレビ番組制作会社を経営、NHK 札幌放送局キャスター、大学講師の仕事をしてしながら36歳で出産。北海道教育委員会や文科省の委員を務めた後、55歳で令和5年春の統一地方選挙で初当選。

しのだ 江里子さん (札幌市議会議員) 東京都生まれ、慶応義塾大学卒業。結婚により札幌市へ。円より子主宰「女性のための政治スクール」に参加。2007年札幌市議会議員に当選以来5期、第42代札幌市議会副議長。(女性で3人目)

林 三枝子さん (Qの会・北海道会長/日本医療大学教授) 北海道大学大学院研究科社会医学専攻博士課程修了。博士(医学)。日本医療大学総合福祉学部介護福祉マネジメント学科教授。現在の研究課題は、死の準備教育の模索と看取りのドゥーラの日本型養成講座の創設。

【コーディネーター】

中田 美和子さん (札幌大学客員教授) 東京生まれ。1972年 HBC 入社のため来道。1988年 FM北海道に入社。編成制作部長、東京支社長、常務取締役を経て2015年退任。「クオータ制を推進する会(略称Qの会)」のパートナー団体として「Qの会・北海道」が昨年9月発足。総務・事務局長に就任。



「女も男もワイワイセッション」に参加して

副会長 高田 恵子

「北海道における女性の政治参画」と題して、道議会議員2名、札幌市議会議員1名、日本医療大学教授1名の計4名のパネラーとコーディネーターの中田氏で行われた。

北海道では、女性議員ゼロの市町村議会が47もあり、50の議会は女性議員が1人しかいなく、地方議員のなり手不足が課題となっている。地域社会を創造していくために、女性議員を増やしていくことが重要である。

2012年に「クオータ制を推進する会（Qの会）」が結成され、2022年に全国初の地方組織「Qの会、北海道」が設立した。「クオータ制」とは、何らかの差別を前提とした暫定的な取り組みで、候補者や議席の一定数を女性に割り当てるという制度で、「クオータ制」の要らない社会を創るための窮余の一策である。

参加者の意見として、「ムダを省いて議員が活動しやすい仕組み作りや議会改革をする。」「若い人たちが性別に関係なく、育休取得が出来るようにする。」「政治家になるために



政治家塾を開催する。」「市民活動をしながら地域に目を向けてもらう。」などの対策が必要だと発言があった。道議会の女性議員率は12.5%で、市町村議会の女性議員率は13.7%。幸い、深川市は、令和5年6月の市議会議員選挙で女性議員が2名から4名に倍増し、今後の活躍が楽しみである。

「女も男もワイワイセッション」に参加して

事務局長 水本 美津子

「ワイワイセッション」の前段に、日本医療大学教授で「Qの会・北海道会長」の林美枝子さんから「北海道における女性の政治参画状況」について講演がありました。

今、全国的に地方議員のなり手不足が課題になっていますが、女性議員がゼロか、1人しかいない議会のことを「ゼロワン議会」と呼び、女性議員を増やすための暫定的な方法として「クオータ制（候補者や議席の一定数を女性に割り当てる）」があるということを知りました。日本では2010年に閣議決定された「第3次男女共同参画基本計画」に明記されているそうです。

台湾では、2005年の憲法改正で、定数の3割を占める比例代表で「各政党は50%以上を女性にしなければならない。」と定められ、2022年11月の台湾統一地方選で当選した女性議員の割合は37.6%に上り「クオータ制」の効果が出ているとのことです。

日本も2012年に「クオータ制を推進する会（Qの会）」が結成され、男女の候補者を均等にしよう政党に求めた「候補者男女均等法」が2018年に施行されましたが、まだまだ現実は厳しく、特に北海道に「ゼロワン議会」が6割もあるそうです。

林美枝子さんは、始終、歯切れよく話し、「ゼロワン議会を無くすことが北海道の課題である。」「クオータ制は、クオータ制の要らない社会を実現するための暫定的な一策であり、逆差別でも、女性なら誰でも良いという取り組みでもない。」「有権者、特に女性は政治を忌避することを辞め、他人事とせず、どんな女性に立候補してもらいたいのか、どんな政治家になってもらいたいのか、あるいはどんな政策を提言し実行してもらいたいのかを考え、議論する場を模索し、そのための何らかの歩みに参画すべきである！」と、力強く締めくくったのが印象的で心に残りました。

「女性プラザ祭 講演会」に参加して

理事 海老田 昌子

令和5年11月9日（木）に女性プラザ祭2023が札幌市において開催されました。午後の講演では「幸福度6年連続1位のフィンランドは本当に幸せなのか」という題材で、駐日フィンランド大使館広報部プロジェクトコーディネーター 堀内登喜子さんのお話を拝聴しました。

フィンランドは幸福度ランキングで6年連続1位、SDGs達成度も3年連続1位を達成しています。かつては、欧州で最も貧しい国のひとつでしたが、長年、人が一番の資源として性別や年齢に関係なく、能力を発揮できる社会を国と国民がつくってきました。

フィンランドは1912年12月6日に独立、人口550万人、フィンランド語87.3%、フェーデン語5.2%、サーミ語2,000人程、英語も通じる国です。国土は森林が7割以上で、紙、パルプ等、金属機械、電気・電子機器、情報、通信等がありますが、99.5%が中小企業ですが、いざとなったら国が保障してくれます。

柔軟な社会を築いてきて

- ・法による差別禁止
- ・男女共働き（配偶者控除なし）外務省の7割は女性
- ・質の高い教育
- ・妊婦検診、育児パッケージ、親休暇など家族全体を支える社会保障制度の充実
- ・安価で安心の保育制度の確立→男性の育休8割
- ・無料の給食
- ・税金は24%～保証制度がしっかりしているので、まだ高くても良い。

☆国民の考え方は

- ・税金を支払うことは重要 94%
- ・税金を支払うことは国民の義務 94%
- ・税務関係機関への信頼 80%
- ・税金は喜んで支払う→税金で恩恵を受けている
- ・柔軟な社会
- ・事実婚～多様な家族の形（4割）
- ・選択式夫婦別姓
- ・柔軟な働き方とワークライフバランス→残業はほとんどなし37.5%
- ・有給休暇は100%消化
父&母が子供と過ごす時間を大事にしている。
- ・進むデジタル化



フィンランドのお話を伺い、問題もありました。

結婚、家族の構成にこだわらない人が増えて来て、少子高齢化、人材不足、税収入の減等で小さな国なので問題は多々ありました。少子高齢化はヨーロッパで2番目に高い数値になっています。小さな国なので資源は“人”であることを前提に、誰もが能力やスキルを活かし、社会の一員となることが大事である。機会の平等と言ってもジェンダーや働き方改革は、この国でも女性の問題として取り上げられています。

税金が高くても保障制度がしっかりしているフィンランドは、国と国民が一丸となって造ってきたことは素晴らしいことだと感じました。

テーマ：「深川市パートナーシップ宣誓制度について」

講師：深川市まち未来推進課 課長 高田 祐貴さん

1月25日開催の第5回役員会の前段に、「深川市パートナーシップ宣誓制度について」をテーマに、深川市まち未来推進課の高田課長を講師に招き役員学習会を行いました。

LGBTQなど性的マイノリティである二人が、互いを人生のパートナーとして生活していくには、現行の法制度では保護がなく、また偏見が大きく渦巻いています。こうした状況の中で、性の多様性への認

知についての理解の広がりや、誰もが自分らしくいきいきと輝く多様性を認め合う社会の実現を目指して、「パートナーシップ宣誓制度」が2015年に東京都渋谷区で導入され、現在では380を超える自治体で導入されているとのことです。北海道でも札幌市をはじめ19市町で導入されており、200組以上のカップルが宣誓されているそうです。

深川市でも「人にやさしいまちづくり」を目指す田中市政の取り組みの一つとして、本年3月から全道20番目に制度がスタートする予定です。の



LGBTQなど性的マイノリティの方々は一説によると人口の1割ぐらいだそうですが、偏見が渦巻く中でなかなか声を出しにくい現状だと思います。

この制度がスタートすることをきっかけに、さらに理解し合い認め合う社会の実現に向けて、行動が必要だと思います。

(副会長：城 美照 記)

第23回総会のご案内

日時：4月12日(金)18時

会場：中央公民館 1階中会議室

会員の皆さんには、後日あらためてご案内いたします。

